特集

トラック運送業界とSDGs

エスディージーズ

第12回

持続可能なトラック運送業界の実現を目指して

丸永運送㈱のSDGs推進への取り組み

本特集では、SDGs（持続可能な開発目標）とトラック運送業界の関わり方について紹介しています。……今回は、福島県矢吹町の丸永運送㈱（北畠修司代表取締役）の取り組みです。

北畠　修司
代表取締役

若年層に就職先として選ばれるために長年の取り組みを継続してSDGsに繋げる

丸永運送は運送部門と倉庫部門をもち、運送部門では関東地方などへタイヤ関連製品や自動車部品などを輸送している。

同社がSDGsに取り組み始めたきっかけは、小学校や中学校での教育内容にSDGsが盛り込まれるようになり、生徒や児童のSDGsに対する関心が高まりつつあることだという。同社では5年前から、高等学校新卒者採用を開始している。義務教育期間にSDGsを学んできた若年層に就職先として選ばれる企業となることを目指し、同社では若年層とのコミュニケーションツールのひとつとしてSDGsへの取り組みをスタートさせたという。

同社では令和5年10月、自社ホームページ（HP）上にSDGsの取り組みを紹介するページを立ち上げてSDGsに取り組む姿勢を発信し始めるとともに、会社としてSDGsに取り組むことを従業員に伝えた。

「SDGsに取り組むにあたっては、『新たに大きなこと、難しいことを始めるのではなく、これまで当社で長年培ってきた活動がSDGsに繋がる』ことを従業員に強調しました。これまで進めてきたことをしっかりと続けていくことで、持続可能な輸送サービスの実現に繋がることを多くの従業員に理解してもらい、SDGsに取り組んでいます」（北畠社長）

毎年3回安全会議を開催し、事故防止への意識を高める

「健康宣言」を行い健康づくり強化 荷主との運賃交渉を通じて待遇改善を推進

同社が宣言しているSDGs目標の実現に向けた具体的取り組みを、同社HPで紹介されている項目ごとに紹介していく。①いきいきと活躍できる職場環境づくり（目標③：「保健」、目標④：「教育」、目標⑤：「ジェンダー」、目標⑧：「経済成長と雇用」）

同社では、「同社で働いている従業員にいつまでも元気で長く働き続けてもらいたい」と考え、健康経営への取り組みを強化。4年に全国健康保険協会（協会けんぽ）福島支部「健康事業所宣言」を行い、翌5年3月には「健康経営優良法人」に認定されている。

定期健康診断を全従業員が受診していることを確認の上、要再検査・要精密検査と診断された従業員に対するアフターフォローも徹底。要再検査者などは個別で面談を行い、「健康を保つことは、自分のためだけではなく、家族のため、会社のため、社会のためでもある」と説得し、早期受診を促すようにしている。

また、同社では「健康事業所宣言」を機に、始業時にラジオ体操を行うようにしたほか、不足しがちな栄養素を補給できるように点呼場に青汁スティックを配置。ドライバーの中には、配置を機に、毎日飲んでいる人もいるという。

「従業員教育」に関する取り組みでは、道路を利用して事業を行う上で最優先課題と位置づけている安全対策を徹底するため、毎年3回（8月、12月、3月）「安全会議」を開催するほか、ドライバーへの個別教育を毎月実施し、事故防止への意識向上に繋げている。

「女性の活躍促進」に関しては、現在同社には3人の女性ドライバーが在籍しているが、荷役作業はフォークリフトやカゴ台車で行っているため、体力面での負担は軽減されている。また、仕事と家庭の両立の観点から、女性ドライバーの勤務時間を個別に設定している。

「女性ドライバーは丁寧に仕事に取り組んでおり、事故やトラブルが少ないという特長があります。また、一般的に『男社会』とみられがちな物流の世界で女性ドライバーが活躍することで、社内の雰囲気も大きく変わります。さらに、当社では女性ドライバーのほかに、4人の女性事務職員が在籍していますが、将来的には幹部候補として活躍してもらうことを視野に入れて、女性事務職員を増やしていきたいと考えています」（同）

「経済成長と雇用」では、同社が目指す目標として、「労働者とその家族の基本的ニーズを満たすために適切な賃金を定期的に支払うことを維持する」と明示した上で、ドライバーの待遇改善に向けた原資を確保するために、荷主との運賃交渉を進めている。「ドライバーの待遇改善は、荷主の協力なくして達成することができない。待遇改善が実現できなければ、ドライバーの採用のみならず、離職するドライバーが増え、これまでのように荷物を運ぶことができなくなってしまう」と、荷主に対して適正運賃・料金収受への理解を強く求めている。

「持続可能な物流を目指していくためには、ドライバーの待遇改善を図り、担い手を確保していくことが何よりも重要です。『物流の2024年問題』に対する荷主の理解が広がりつつある中で、トラック運送事業者としてはこれまで以上に荷主とのコミュニケーションを図るとともに、荷主への働きかけを強化していく必要があります。『当社を支えてくれている従業員とそのご家族を守っていくために、適正運賃・料金を荷主から収受して、従業員やご家族に還元していきたい』という信念を強くもち、荷主との交渉を進めています」（同）

「健康事業所宣言」を機に、同社では毎朝ラジオ体操を行うようにしている

ハザードマップを活用して災害対策を進めるなど、災害時にも持続可能な体制づくりを進めている

健康づくりの一環として、同社では点呼場に青汁スティックを配置している

持続可能な物流の実現に向けて、荷主との運賃交渉を進めドライバーの待遇改善を図っている

災害時にも「持続可能な」体制づくりを加速 荷主と連携し燃料電池トラック導入へ

②技術・知識で社会貢献（目標⑨：「インフラ・産業化・イノベーション」、目標⑪「持続可能な都市」）

同社では事故防止の観点から、車両にデジタルタコグラフを導入しているほか、ドライブレコーダーを搭載。安全会議や個別指導の場を通じて、特に、速度や車間距離などに気を付けるよう、指導を徹底している。

また、同社では安全会議などを通じて、ドライバーへのエコドライブ教育を強化。安全で低炭素かつ持続可能な輸送の実現を目指して、エコドライブへの取り組みを進めている。

③環境への配慮（目標⑦：「エネルギー」、目標⑬：「気候変動」、目標⑭：「海洋資源」、目標⑮：「陸上資源」）

「気候変動」や災害などへの対応では、平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、同社が本社を構える福島県矢吹町で震度6弱という強い揺れを観測し、同社でも多くの倉庫が全壊や半壊、一部損壊などの被害に見舞われた。また、令和元年東日本台風（台風19号）では同社の仙台支店（宮城県村田町）で浸水害が発生し、事務所と全車両が水没するという被害を受けた。

エッセンシャルワーカーであるトラック運送事業者が、災害発生時においても事業の中断を最小限に食い止め、事業を早期に再開していくためには、事業継続計画（BCP）の策定など災害への備えを進めておく必要がある。同社では、東日本台風直後にBCPを策定し、荷主企業や従業員の緊急連絡先を整理したほか、自治体のハザードマップを再確認し、避難経路や避難方法を決め、定期的に訓練も行っている。

「エネルギー」に関する取り組みとしては、本社と矢吹中央物流センター（福島県矢吹町）の屋根に太陽光発電システムを導入。同社では、今後も太陽光パネルの設置場所を増やしていきたいとしている。

さらに、同社では現在、水素を燃料とした燃料電池大型トラック（FC大型トラック）の導入に向けた準備を進めている。

福島県は、再生可能エネルギー導入率が40％以上を占める「再生可能エネルギー先進県」である。福島県では平成23年に「福島県再生可能エネルギー推進ビジョン」を策定し、水素をはじめとした再生可能エネルギーの飛躍的な推進を図っている。令和3年に策定した同ビジョンの改訂版では、3年～12年までの10年間で水素ステーションと水素モビリティの普及を図り、水素社会を実現することなどが盛り込まれている。

一方、同社の主要荷主であるタイヤメーカーは、福島県白河市にある白河工場で、水素エネルギーと太陽光発電を活用したタイヤ製造に取り組んでおり、5年1月には日本初の製造時カーボンニュートラルを達成した量産タイヤの生産を開始している。タイヤ製造に使用する水素は福島県内の水素製造拠点から供給を受けており、県内で生産された水素を使ってタイヤを製造することで、水素エネルギーの地産地消モデル構築を目指している。

同社では、「再生可能エネルギー先進県である福島県で、水素エネルギーを活用して製造したタイヤを、環境にやさしい燃料電池トラックで輸送することで、カーボンニュートラル達成に一層貢献できる」と、主要荷主であるタイヤメーカーへの働きかけを行っており、今年中の運行開始に向けて調整を進めているという。

「二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出をゼロにする『脱炭素社会』の実現は、我々が暮らす地球を持続可能なものとしていくために、産業界、消費者、政府・自治体など国民各層が総力を挙げて取り組まなければならない、重要な課題であるといえるでしょう。燃料電池トラックによる輸送を通じて、荷主とトラック運送事業者が連携してカーボンニュートラルの達成に貢献することができます。当社ではこれからも荷主と協力しながら、地球にやさしい輸送の実現に向けて一歩ずつ取り組みを進めていきたいと考えています」（同）

「高校生職場体験」を通じ、同社の取り組みを高校生たちに紹介する

職場体験でSDGsへの取り組みをアピール さらなる理解促進を図る

若年層とのコミュニケーションツールとして、SDGsへの取り組みをスタートした同社では、若年層に向けたトラック運送業界のアピールも進めている。その中で最も大きな取り組みは、高校生を対象に2日間にわたって実施している「高校生職場体験」である。

職場体験では、事務職員総出でトラック運送業界の魅力や同社の事業内容などについて説明を行うほか、トラックへの添乗なども実施。さらに、社会保険の知識などについて説明を行うなど、業界体験のみならず社会人としての知識を学ぶことのできる場にしているという。この中で、同社におけるSDGsへの取り組みも紹介。トラック運送業界は環境に負荷をかける業界ではなく、カーボンニュートラルの達成に向けた取り組みを行っている業界であることを若年層に知ってもらい、トラック運送業界を「将来の就職先」として選んでもらえるようにしていきたいという。

「当社におけるSDGsの取り組みは、まだ始まったばかりです。今後も従業員のほか、荷主や地域社会の方々にも当社のSDGsの取り組みについて理解を深めていただきたいと考えています。そのためには、トップダウンの取り組みではなく、ボトムアップ型で取り組みを進めていくことで、当社のさらなる活性化に繋げていければと考えています」（同）

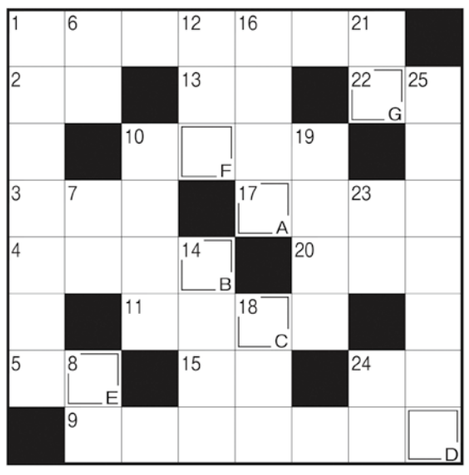
（取材協力）丸永運送㈱
北畠修司　代表取締役

企業プロフィール

社名	丸永運送㈱
本社所在地	福島県西白河郡矢吹町北町68-1
代表者	代表取締役　北畠　修司
設立	昭和42年6月2日
資本金	2,000万円
従業員数	87人（うちドライバー54人）
車両数	69台

爽快明快 あなたは解ける!!

クロスワードを解いて二重枠に入った文字をAから順に並べてできる言葉は何でしょう？



答え
A
B
C
D
E
F
G

※解答は、4月1日号に掲載します。

ヨコのカギ

1 そろそろミルクを卒業する赤ちゃんが食べます
2 珍しくない。そんなこと○○にあるよ
3 全体の中の一つ。○○○的
4 悪路なので車体の○○○○が激しい
5 駅から○○5分です
9 高速道路の合流点
10 階段の途中にある少し広い所
11 彼はなかなか○○○○シップがあるね。班長に向いてるね
13 ロープとも言います
15 獅子○○　○○扇　○○姫
17 夜空をいろどる光のカーテン
20 傷口にあてる柔らかい布
22 カラオケで○○晴らし
24 お坊さんに渡す金品

タテのカギ

1 予約席
6 レバーと一緒に炒めたりする細長い野菜
7 論○○　疑問○○　感想○○
8 持ち続ける。記録○○者
10 卵は産みません
12 ゴルフクラブのドライバーやスプーン
14 女性。○○○○リブ
16 セリフやト書きが書いてあります。脚本とも言います
18 日曜○○○で本棚を作ったよ
19 チーズ○○○○　テリヤキ○○○○　ハン○○○○
21 バットがむなしく○○を切った
23 強くエンジンブレーキをかけるときや車を発進させるときに使うギア
24 ポイントが○○されました
25 ソメイヨシノの開花予想を結んだライン

パズル制作：ニコリ